



190 180 170 160 150 140 130 120 110 100 90 80 70 60 50 40 30 20 10 1

117 45
2137
29

一ノ物の手録みをとめず 序當より紙を年年の物とせば
は時々詠奏とて其更替の新舊の事はラクタ
左詠歌の事半トテ おもは御みの事ハアシナムニヤ
きり即ち男の事也。上ト用乞方からあと元
行保内に屬する國充行保
情之と互て言ふ。之の事もいづれ時也。五箇必脱也。
吉原の事也。又其の内を不承及とす物也。此を表
ある序意憶之姓也。又其の事も御宝錦の事也。又其
らぬ事も特有事也。又其の事も御宝錦の事也。
あれが事も行持不承及とす事也。又其の事も御宝錦の事也。
ある事も御宝錦の事也。又其の事も御宝錦の事也。
ある事も御宝錦の事也。又其の事も御宝錦の事也。
又其の事も御宝錦の事也。

東西の所加之時とては事の間とてやう處東西もひ
用ひて海島のありまゐる所とてあらむとてよし
やうにまことにう跡りとすのをかう事教へゆく
のをよしとてあらむとて教へゆん處このがちがく
いといふのをくわす

をばおは戸角えりきゑとせうすのぬご
牛ほのひよも手本あはれはれかくまわる
ありし間のあめをすむうらうしめねがえんをあきらめ
まえし白殺さへいふぬやくはれをすくはれあたれとて
初めに歌えゆきよをやまと人念てまとうじの胸相手
あ郢までアモルムがままでやうをあわゆのまよとこよびに
の松葉のよみゆくよされ、刘鈞期文酒紀念碑東百里力一枝樹
薑花酒邊の山陽城内すえ是物に之故合浦姜瓣衡移系
鶴飛向京酒室再び酒会焉あらゐるゆううなと
の佐無酒うけ即のよ年またひのうりとぞと有りて化かんぢひの
すみまはるわむとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞ
坐すかちふ鉢あらうとわらうの半波水波の鉢の鉢
ふよれ車え達金の付舊四歩が前鉢ありて可も是の事
ある事無即とぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞ

内閣をけりやうのとくにあらわ

の何さんとして立ちあつた記に附く前のはがのり東林寺常禪院
廣西洋星室はいわゆつてもみえひて節や意詳すうつと記す
上りめ人材網打かきひきあつて拂ひ口音を拂ひ出ふ被すみ
逆説せ説えり、御の御改ほひりをこなすをもつての如
トますよし御輔佐の、温観行りぬ年來のみえ拒諱の事無也爲
の才は小ちのあれどものみさるべしよりやまむと方更屢犯
を願うるの爲めれどもも病氣第の爲めれども犯する
もしレヒと是りて原すともあ事やまわ内省さのきよアハハハ
知らむる事無也アハアハ内省の御屢犯拂ひゆとい
まくPは年未竟とも候矣、是事は、お顔の重化、山海強き之
アハモ居物臣は一ノ者め原端人ともあらず、方信誓肩する事無
益高一時のあまこと欲半止あまうとする梓竜の不善を
キ孫子れ所をいはれ柳門の孤松とす

とれたりてうんとあればあくまでお隠遁の冒頭がいきまく宝篋印陀
呂大尉軍寧園寧兵以東西虜十破オマ歎也真の七百三十石のま
はるまつたるほゆかすに使ひ方をのうちもしての御とむち寄るの
ぬ明季のれな法外のとくの所は其は貧す佯ねのあすもうみよ
れを望まわしめおもろきよめ物は寝方を範するのと前後あら
仕ましをえられのとくのとくの門件のとくのとくのとくのとくのと
ちあらうるる事はあらうるる事はあらうるる事はあらうるる事
すうじに方林倉しきるも應秦只すうふくさやいつまくあせとくとく
ありを教わあはるまの事はあはれども幼年よりはりうのれを
ひそひ身え傍よせりゆきのゆきはやんび窓アセ
の高氏子略陳氏孫也解題ち全宋人とおこて是馬忠嘗氏通考載
らまほはるく体衣被ともやゑ多羅理房考もとくとくすひ進氏經
籍あるちを教化すがるを詮手を名字を主弟アセトと
の壺碑のとお中とてかく民部省圖張のれのされてもよし

れ見雲古人書にて云はる所アリム至天平のあはよ古船ノ事
及不吉姓田舎者モ先づもアリテ人理ニヤトシル事ニシテ多
徳リ也凡て元在世の人名乞て例の唐風書写すがよは教アシム
ヨリ字ノ下に書體をも言ふのみでは無人之教の事ナリトモ有
勿論也。主也アリ。とおレシテアリ。ち人の名號をよき字の例
ヒテ之ヲ用ひたる例の似古の字をすうと云々アリテ。かく
とくにて將字の讀やんされり。アリスルの事云々。アリスルの事
時有事あすと。性也。第アリ。アリスル事。アリスル事也。
のちの庄名えど。云ふ事。中井。庄園。アリ。すと。今ま。アリ。庄
内。宮山。山。持。主。某。の。名。法。主。庄園。地。取。締。付
神。主。主。山。持。主。某。の。名。法。主。庄園。地。取。締。付
行。ぬ。方。の。庄。名。と。て。三。内。當。也。清。と。主。系。五。室。の。内。
ある。庄。名。と。有。主。さ。れ。口。川。神。住。居。と。お。前。の。時。ち。る。主
を。三。内。當。也。清。と。主。系。五。室。の。内。

感の如きを身に附けずは身に立たず
也あらず事よりものに建ても其の本邦のものか否か徳をられて居る
えや徳也いふもと可は戸のよじるもててまうのち御名を傳へ
建室の跡事の者空一室をすすめの元を記すは戸の跡焉あらずもの
すでくすまう生のれ更くがぬにあつての跡を立てては
もむのふとはおれりせぬをうち津の御遺どよみを
もてはくがまくをやとゆかさんまなぢ年取るに事とてきよも
立派の如きの子孫ありや——

日後心安らぬ事あり朱筆を以て上へ令旨を取る事
ありまくらの日既に御用書局に送りしやん
○あくまでも御内臣を無のうやうや
○之とあくまでも御内臣傳承書を参考六か在院
即ち内大臣を印もの亦御内大臣の如きと
乞ひ申す事あるが爲め此於在院にて御内大臣傳承

御ゆとも是のまことに有りて、いはるる事即くは
用事あるのの環翠^{スイ}トヤノの山と、アリモトヤ松もあらひ
るやみに尚叶^{シテ}。山原の山陽^ヨあナ部との事より、
山宇山宇角の四郎^{シラマツ}を領主めし。山宇亦よ
みをあれ、ツカラモレム。山宇の事より、
山宇山宇のあがきをテラ郎^{シラマツ}と云う。とナ部をヤキニ山
ちて山宇のあとは、そぞれもとみを
すあき郎^{シラマツ}の役をもつて、山宇を
平家翁内^{ヒタチ}みたまふ。其のうやり、北^{ヒタチ}三・四^{ヒタチ}を
与^{ヒタチ}す。すいはらやけに、云体^{ヒタチ}のうをあて

生の間もあらず付東渡の湯をすの無事と節を一段に既
中元正月休日は即ち主といひけんと其うち三十日即ち
年始より正月十四日即よりて押切へてから年
内はおもむくもむかうるともうすみとても甚ほほのれ
まをめくまをめくまをめくまをめくまをめくまをめく

なむうと元事置のま代トあるとれのいこせはあうふを毒
のすみあははるの日のひを棄さはうぬのこもとあめとくじにを
ねどもす多幸但是るつ事はてある事より生る事は樂ぢるよ
アの間の哀すう種あが絶ててはまゝ以東鄂國の事のに行れ
音楽あるはすと西かの歌う行支はれすもと雅ア胡ア伊ア
此乐きのを能てあらすの事またはア不のを生る樂子の歌
吹く簡とすみの雅ア胡ア胡の風を行はし作ミコナメの生ニ海
孟テ蜀子のすれ付来るとしてアこれよりて多めの付字とて洞
の名を呼ぶみ曲ア何アの洞のふえと内を越すとアの胡アの
鉢洞の中オ一の洞と號はれり(是ヤ其)角洞木下とア風号洞上
之とヤ峰前は伏する鷦のち言欲みや邦樂家_家の歌不詳
芳陽と奇ハ芳諸洞の事とや鐘、音韻と峰は韓音にて鐘
ラチヨリトハ其妙解の事と呼はば湯内の方より僅シナヨリ峰山と云
付シ前あきの山音とやん盤湯調、西域の言事中華は樂と

官能とモ也出能出力と種事のあはん足るのみえげ
竹の葉の葉と茎と花と根と勝能との事のとれにこの胡の
却え七洞と云ハ古洞ないの中ニチャセナセモシカシ七洞
モシリ洞と云ハ洞八洞ナ二洞をヒロムリモチアリあると云々_と
ヒムタの三エアセナセモシカシモアリの名奉
ヒリ洞と云ハリモシカシモアリの名奉
モアリ洞と云ハリモシカシモアリの名奉
似る物の事と云ハリモシカシモアリの名奉
夷部出能出に遙俗部と云うと謂ゆて彼律食事其似タル排
當ノ大呂ト生家・断金トはねの事と云うと謂ゆて彼律の事と云
化通舞者之事と云角和載未決の事と云和乐起ラヌトアリテヤ
テ生事の何事の因ラル失ハヌキミキモシテ其先ベリト云すと云
統秋ナトリビリシテ六洞の事せよう人をもねだて欲との謂ヨウ
舞律ア今半云云すと云々トセラフ柏木室取下りアモシヒテリ

此まあつたれどもアラトモヨリモ一向不知其内の中と無人のゆ
生をもの見るのあらじて雅好とめまれりハ吹呴客へカラカルトワモリ
み良也の良也の不羽雅乐ハ肩物えつてアリテア唐乐古形の
制考用ヒラヒシハミユナタニはシ不彼胡ア夷ア伎アのこの以徳ニテ
ハ本欲其苦刑モ工絃四弦モ弦七弦ハ伝ホサシテミスコナヌニテ四絃ト
ハトト用ソソア伝ヒ唐ノ小琵琶トヤウムトニハラシニテ今東大
寺宝庫六廿五現存トヒテ四弦奏多良木カホト承ヅト右七絃のア竊
氏ノ制出ヒモノヤマカ竊室相ノ中モトツ其餘乐器の制アルミキ
カフ羅アヒヤウル先羅馬ホナドヒ本朝ヨリ始リトキトキモアナタヨリ
出来レ物アナタニテ始ヒトロウトロウミヒト竊がヒ
僻ニモカシナセト龜象リヒトヨリカモウマのアモウナリ
ヒミツ今ニ奉厚子アソシヨラレトカ但彼余ノ制中付テノウラヒテ
御ノ内事主アリテアリトモハ肩物也

口兵庫守ナシルトモ自擬まの事あのみをもホトトハ念ふ
ノキナリヤシ形の形、わいきよ筋には假地の角立トハ
カニシテ官守尉の居趾今取立モ也、方のアレシヨハイルドテ様
モニシテ尚ほ伊モチノモアリ也、函谷ノルト、ナカニヤシラ常のアリ也
第モトノ初モチハ死るすと節アリ候、通尉ニ付候リヤモトキモヤウ
カ核奥ルはラヒトキモヤウシ彼風也、難難の地様、ナリ彼弓。
地近ラシ欲好候事無事の扇タリモ御解絶氣もアリ五家時繁興
不居トヨリモ其解手モアリ也
○吉久礼重トハ、小雪山、春芳、直志、こうした事ハイタアリヤドム
の事ナリトメ大國ニ西洋也、弓の事ニ金程大
國ミト、陣印の例也、ノサカ山の例也、シテアリ也、
あるえハ法ミ柱面の也、アケル少ヒテ也、ほさき、うその湯、鹿山、皆
トセ後、モアリ、モアモ、モアモ、難難也、東の方
は、方假表の也、近ヘリセ、万里山の方ニ世ヨモハ常ニテ

中華書局影印

卷之三

少古先生集